

地方独立行政法人天王寺動物園の業務実績評価シート（大項目・全体評価用）

（令和５年度中実績・令和６年度評価）

■大項目にかかる評価

【評価点】
S：特筆すべき進捗状況
A：計画どおり
B：おおむね計画どおり
C：やや遅れている
D：重大な改善事項あり

（参考：小項目の評価点）
V：計画を大幅に上回って実施している
Ⅳ：計画を上回って実施している
Ⅲ：計画を順調に実施している
Ⅱ：計画を十分実施できていない
Ⅰ：計画を大幅に下回っている

【小項目評価（Ⅴ～Ⅰ）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
●小項目について、概ねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、項目ごとの内容の中期目標での重要性等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価				評価委員会意見 （要旨）
				大項目		小項目		
				評価点	評価の理由	番号	評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	・多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。 ・再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。	A	・JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理の担当等を受嘱しているほか、令和5年度は第23回種保存会議を開催し、他園との信頼構築に努めている。これは展示動物の計画的な導入・確保にも繋がる取組であり評価できる。 ・イベント実施や情報発信にあたっては、分析や工夫を行いながら内容の充実を図っている。 ・上記より、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	1	Ⅲ	・項目2（種別管理等の担当・種保存会議の開催）については、2年に1度開催されるJAZAの会議の中でも大規模な会議であり、動物園の中心的な役割である保全活動について議論する、「種保存会議」のホストを法人が担当し、無事開催できたことも評価すべき。また、種別管理等の担当も引き続き熱心に取り組んでいる点も評価すべき。
						2	Ⅳ	
						3	Ⅲ	
						4	Ⅲ	
						5	Ⅲ	
						6	Ⅲ	
						7	Ⅲ	
						8	Ⅲ	
						9	Ⅲ	
						10	Ⅲ	
						11	Ⅲ	
						12	Ⅲ	
	2	動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	・教育普及機能を強化し、飼育動物の生態のみならず、環境問題も視野に教育普及活動を行い、来園者の行動変容に繋げる。	B	・来園者の行動変容に繋がる取組として、ボランティア制度や様々なプログラムを継続実施している。 ・各取組において、アンケート等を実施し、内容の充実を図っていることが認められる。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	13	Ⅲ	
						14	Ⅲ	
						15	Ⅲ	
	3	動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	・動物園の主役である動物たちが健康で幸せに暮らせる環境を創出するために、飼育管理機能を強化する。 ・飼育技術を継承・高度化するとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を推進する。	A	・独法化以降、継続的に環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングを着実に実施しており、ソフト面での飼育管理機能の強化に努めていることが認められる。 ・また、動物福祉に配慮した獣舎整備に向けて、現獣舎の補修・点検や新獣舎の整備を実施している。 ・上記より、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	16	Ⅲ	・項目17（環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニング）について、独法化以降大幅に取組種数が拡大している。今後は種数を増やすことよりむしろ、効果の検証を意識してほしい。 ・逸走事故について、当初の提案では項目19で評価していたが、来園者の安全確保に関する項目で評価する方が適切である。
						17	Ⅳ	
						18	Ⅲ	
						19	Ⅲ	
						20	Ⅲ	
						21	Ⅲ	
	4	繁殖及び調査研究活動の推進	・飼育動物の維持・充実とともに、生息域外保全という観点から種の保存に貢献するため、繁殖技術の向上を図る。 ・動物の生態に係る各種調査研究活動を推進することで国内外の動物園からの信頼を高める。	S	・繁殖に向けた取組をチェックポイントとして見える化し、継続的な効果検証を実施している。その結果、当園では9年ぶりのフラミンゴの繁殖に成功しただけでなく、国内2園目のヨウスコウワニの繁殖にも成功したことから、繁殖技術の向上が見受けられる。 ・法人内で複数の研究を進めているだけでなく、成果がまとまったものについては研究会等で発表も行い、査読付きの雑誌に掲載される等、目覚ましい成長をとげており、国内外の動物園からの信頼向上にも繋がっている。 ・上記より、特筆すべき進捗状況であると判断できることから、S評価とする。	22	Ⅳ	・項目22（繁殖に向けた取組）について、チェックポイントの対象ではないヨウスコウワニの繁殖に向けた様々な取組が成果をあげ、それを発表することによって全国的な模範になるような事例を提供できたことは非常に重要であり、高く評価されるべき。
						23	Ⅲ	
						24	Ⅲ	
						25	Ⅳ	
						26	Ⅲ	
						27	Ⅲ	
						28	Ⅳ	
2 効率業務に運営する改善項及び	1	自律的な組織経営	・機動的な組織体制の構築 ・適材適所の柔軟な人事配置	B	・機動的な組織体制の構築に向けた取組を行っており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	29	Ⅲ	
						30	Ⅲ	
						31	Ⅲ	
	2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	・人材の確保・育成 ・職員の能力向上と意欲喚起	B	・継続して人材育成にかかる研修等を適切に実施している。 ・インセンティブが適正に働く人事評価制度の確立に向け、現行制度の見直しを進めている。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	32	Ⅲ	
						33	Ⅲ	
						34	Ⅲ	
						35	Ⅲ	
	3	効果的・効率的な業務執行	・PDCAサイクルの確立 ・ICTの導入及び活用	B	・PDCAサイクルに基づいて各種制度を運用できており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	36	Ⅲ	
						37	Ⅲ	
						38	Ⅲ	

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価				評価委員会意見 （要旨）						
				大項目		小項目								
				評価点	評価の理由	番号	評価							
3 財務内容の改善に関する事項	1	収入の確保	・着実に入園料収入を確保する。 ・戦略的な渉外営業や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。	B	・ファンクラブ会費収入は目標値には達しなかったものの、令和4年度以降、加入者数及び会費収入額は増加傾向にある。 ・また、新規入園者の獲得に向けた広報や企画、渉外活動を着実に進めており、入園者数はコロナ前の水準に近づいてきている。その結果、前年度より入園料収入、入園料外収入いずれも増加した。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	39	Ⅲ	・項目40（ファンクラブ）について、ファンクラブ新規加入促進に関する発信が足りないと思うので、PR方法を工夫し、加入者獲得に繋げてほしい。 ・項目44（オリジナルグッズの開発・販売）については、収入面だけでなく来園者サービスにおいても重要なポイントであるため、今後も売店委託業者と協力しながら記憶に残るような商品を作り出してほしい。						
						40	Ⅱ							
						41	Ⅲ							
						42	Ⅲ							
						43	Ⅲ							
						44	Ⅳ							
2	経費の節減	・業務内容の精査により、経費節減に努める。 ・投資についても、経費の抑制に努める。	B	・光熱水費の削減に向けた取組を実施するなど、経費削減に努めており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	45	Ⅲ								
					46	Ⅲ								
					4 その他業務運営に関する重要事項	1		内部統制の強化	・法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。	B	・継続して内部統制にかかる取組を適切に実施しており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	47	Ⅲ	・リスク管理についてはマネジメントや体制だけでなく、発生した事故等をリスク管理の視点からも評価できるような項目もあればよい。
												48	Ⅲ	
												49	Ⅲ	
												50	Ⅲ	
51	Ⅲ													
52	Ⅲ													
53	Ⅲ													
54	Ⅲ													
2	来園者の安全確保	・施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。	B	・令和5年10月にはチンパンジー逸走事故が発生させ、来園者を避難させる必要が生じた。 ・一方で、老朽化による設備の不具合等が発生したが、随時、対策を行い、来園者の安全確保ができるようマニュアルを改定するなど継続して見直しを続けている。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。		55	Ⅱ	・項目55（来園者及び職員の安全確保）について、今回発生させた動物逸走は獣舎の隙間からの逸走とのことだが、獣舎の構造にかかる注意事項については、飼育担当者だけでなく施設整備担当者にも理解してほしい。						
						56	Ⅲ							
						57	Ⅲ							
						58	Ⅲ							
3	職員の安全衛生管理	・安全対策の徹底と事故防止に努める。 ・職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。		59	Ⅲ							
4	環境に配慮した取組の推進	・環境に配慮した取組を推進する。	A	・継続して環境に配慮した取組を着実に実施しているだけでなく、食品ロス削減に向けた企業からの飼料の受入等新たな連携を実施するなど積極的に拡大しており、計画どおり進んでいることから、A評価とする。		60	Ⅳ	・細かな環境配慮の取組は、生物多様性保全を掲げる動物園にとって非常に重要な項目であり、教育にも繋がるため評価すべき。今後も模範となるような事例を積み重ねてほしい。						
5	情報公開の推進	・毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。		61	Ⅲ							
6	B C P の策定	・ B C P（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。		62	Ⅲ							

■全体評価

- 各項目の評価を踏まえ、記述式で評価。
- 年度計画の項目にはないが、中期目標の達成に資するものがあれば、ここで評価を行う。

【市長評価】

全体を通しておおむね計画どおりに進捗している。
 新獣舎は令和5年4月に「ペンギンパーク&アシカワーフ」が、11月に「鳥のセカイ」がオープンし、園の魅力向上や入園者数の増加に繋がった。また、能登半島地震で甚大な被害を受けた、のとじま水族館からカリフォルニアアシカ1頭を受け入れ、動物園の立場から被災地支援に協力することができた。
 動物福祉向上に関する取組や繁殖等、法人設立時より力を入れてきた分野が成果を上げ、令和5年度はフラミンゴやヨウスコウワニの繁殖に成功した。また、繁殖活動や日常の飼育から得られる知見について情報を整理し各班単位で研究を進め、研究会等での発表にまで結びついていることは、調査研究活動が属人的な活動ではなく組織の活動として定着してきていることを示している。この点については計画より進んでいると評価できる。
 一方で、令和5年10月にチンパンジー逸走事故を起こし、来園者の安全を脅かした。これについては対策を講じてはいるが、今後もリスク管理の在り方や安全対策について、検討を継続してほしい。また収入の確保については計画どおり進捗していないところもあるため、ファンクラブ会員数の増加に向けて取り組むとともに、地方独立行政法人であることを活かして寄附等を戦略的に増やすことで魅力的な動物園づくりをより一層積極的に進める努力を求めたい。

【評価委員会意見（要旨）】

全体を通して、独法化以降、力を注いできた動物福祉の取組が実を結び、多くの成果を上げている印象である。特にヨウスコウワニの繁殖については、国内で2園目という限られた先行事例の中で創意工夫を重ねた結果、繁殖に成功しており、市の評価のとおりである。また、ペンギンパーク&アシカワーフのオープンは多くのメディアに取り上げられ、園の魅力向上に大いに貢献した。さらに、被災園からの飼育動物を受け入れることができたのも、十分なバックヤードを備えた新獣舎があったからこそできたことだと考えられる。
 一方で、ファンクラブ会員の増加や収入の確保については、より戦略的な取組が必要であり、今後の積極的な努力に期待したい。
 また、当初計画では想定していなかった成果や課題が出た際に、その内容についてアピールや評価ができるような項目や仕組みを、市と法人で協力して検討していただきたい。